

知識を身につけ、操縦も体験できる

ドローンライセンススクール

個人の趣味にとどまらず、産業用として急速に普及しているドローン。
2022年からは国家資格である「無人航空機の操縦者技能証明制度」も始まり、
副業としても注目を集めています。この機会にぜひ、ドローンパイロットを目指してみては？

座学で 基礎知識を 学ぶ

講習のカリキュラムや国家資格である技能証明制度、講習で使用する機体などについての説明があり、さらに、飛行禁止空域などドローンを飛ばすときに遵守すべきルールについて学ぶ。



● 基本操作

機体をヘリポートに置いてスタンバイ。ドローンは「プロポ」と呼ばれる送信機で操縦する。左右1本ずつスティックがあり、倒す向きや角度に応じて機体が動く。指を離すと、ホバリング（空中で静止）する。



ドローンを 飛ばしてみよう！

操縦する際はヘルメットとゴーグルを着用する。上昇・下降、前後移動、左右移動、旋回とひと通りの動きを練習したら、床に置いたコーンを目印にして指定されたコースを飛行する。



重い荷物の 運搬も可能

写真の「DJI FlyCart 30」という機体は、もともとは農業用として開発されたドローンを改良したもの。最大積載量40kgと、重量物の運搬に優れた能力を発揮する。



ゆっくり
前進
しましょう



上達のコツは“楽しむ”こと

機体のカメラがどちらを向いているか常に把握しなければならないので、脳トレにもなる。楽しみながら練習をくり返すことで、操作感覚も身についてくる。

● 取材協力 ●

学校法人 三幸学園
みらいドローン
スクール



<https://www.sanko.ac.jp/drone/>

- 所在地：
東京都足立区南花畑1-14-32
(東京未来大学六町体育館)
TEL 050-5444-8229
- 料金：
ドローン操縦体験会（約50分・スクール説明含む）無料。
二等初学者コース（実地10時間/学科10時間）247,500円（税込）ほか。

未知なる可能性を秘めた ドローンの未来に注目

ドローンとは、遠隔操縦や自動操縦で飛行する無人航空機の一つで、国家資格制度が始まったこともあり、資格取得を目指す教室がふえています。今回は、実際にドローンの操縦体験ができる教室を取材しました。

ドローンの用途は空撮のみならず、農業での農薬散布、高所や危険箇所での点検・メンテナンス、空撮画像を利用した測量、離島や山岳地帯への輸送、さらに災害発生時には被害状況の把握や支援物資の運搬など多岐にわたります。このように幅広い分野で活用できるドローンの需要は今後も拡大することが予想され、ビジネスシーンで活用したい人はもちろん、趣味で楽しみたいという人もふえているようです。

まるで鳥になったような目線で見た景色を自在に撮影できる楽しさを、一度体験してみませんか。